

玉手山学園広報

No.53 新年号

2007年1月10日発行

総合学園広報紙

「教育力の向上」、

学生の「満足度向上」に

総力結集



「学生・生徒・園児に
情熱と愛情をもって」

理事長 江端 源 治

■謹賀新年

学園教職員の皆様、明けましておめでとうございます。学園創立以来65回目の迎春、今年2007年も皆様にとって素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。私学大競争時代の真つ只中であって回復の兆しなき少子化、進学率の頭打ち、明らかな学校過剰とさなる大学等濫造など吹き荒ぶ逆風に打ち勝つには、教育研究活動の一層の活性化による教育力の向上・良質な教育サービスの提供に徹し、社会の期待に応える以外に道はありません。教職員の皆様のご尽力を心からお願い申し上げます。

■「教育立国」、教育再生も競争原理のもとで、学園を勝ち残れる(必要とされる)存在に

「美しい国、日本」を標榜して発足した安倍内閣は、国是の一つに「教育立国」、教育再生・復興を掲げ、教育再生会議を立ち上げました。しかし、直接その重責を担う教育界はいま容赦なき自然淘汰の摂理に曝され、教育再生会議もまた競争(市場)原理を否定せず、むしろ教育バウチャー制度や助成金重点傾斜配分など、「競争」による教育界総体の教育力向上を志向しています。魅力なき学校、良質な教育サービスを提供できない学校を社会はもはや必要とはしていないのです。また、昭和22年の制定以来、半世紀以上を経て改正された教育基本法も第八条で「私立学校の：重要な役割にかんがみ：国及び地方公共団体は：私立学校教育の振興に努めな

ければ」と私学の重要性、私学振興の必要性を謳ってはいても、魅力なき私学の存続をも保証しているわけはありません。2006年度入試における定員割れ大学・短大の発生率は人口減少率を大きく上回り、全入時代という、怪物“は容赦ない淘汰の大鉈を振るっています。体力・抵抗力のある学園はいざ知らず、ひ弱な学園はたちまち発病して時にその命脈までをも絶たれてしまいます。わが学園は在学生のためのみならず、何万人もの同窓生のためにも、さらには未来の学生・生徒・園児のためにも健全に存続発展し続けねばなりません。

■「教育力の向上」、学生満足度の向上」その基盤があつてこそ未来が拓ける

学園の発展・存続の根本は「教育力の向上」とそれによつてもたらされる学生・生徒・園児たちの「満足度の向上」であり、この基盤なくしてはいかなる戦略・戦術も十分な効果を発揮できません。どんなに施設・設備を充実させ、キャンパスアメニティに贅を尽くし、美辞麗句を並べ立て派手な広報を繰り広げたところで、それだけでは学生・生徒・園児は集まりません。教育人として喜びと誇り、そして情熱を持って学生・生徒・園児たちの持てる力を十分に引き出し最大限に伸ばし育てることに徹してこそ、彼らに「入学して

よかつた、卒業してよかつた」の最高の満足感をもたらし得るとともに、そのとき初めて「社会に必要とされる学園」であり得るのです。「教育力の向上」そして「満足度の向上」を永遠の命題として、常に教育力を磨き進化し続ける教職員集団、「本学園に入学したら最高ですよ！」と自信と誇りを持つ教職員集団によつて運営されている学園こそ、「入学したい学校、行かせたい学校、そして卒業したい学校」であり社会が求めている学校なのです。

■学生のせいにはならない、“真の教育人”としてやりがい

さて、「最近の学生は目的意識を欠き、学力低下が目立ち、授業がやりづらい」という声は全国的(極論すれば東大でも)なものであり、われわれも実感するところです。需給の関係からも多様な学生への対応は必然的なことであり、教職員の力量向上がますます高次元で求められます。「学生の意欲が低いから、勉強してこないから、授業を聞かないから、寝るから、授業効果」が上がらない。「確かにこれは直視すべき事実であります。しかし決して学生のせいにしてはならない、そこで留まつてしまえば、いかなる解決・改善も生まれません。否、むしろさらなる悪循環を生むこととでありましょう。そんな学生

をこそ、やる気を起こさせ授業に興味を持たせ集中させていくことが教職員に求められているのです。いよいよもつて大変ですが、真の教育人“ならば、そこにやりがいを求めて取り組むべき喫緊の課題でありましょう。

■教員対象の新人事制度に期待する

今、検討中の教員人事制度幼稚園(大学)は大詰めの段階を迎えています。この制度の趣旨・目的はまさに教員の資質・能力の向上、教育力向上、学生の満足度向上にあります。学園の使命、各校園の教育目的・目標を達成するために、教員に求め期待する役割・責務を明示し、その実践の質を一層高め、そしてそうした教員の働き・頑張りを正當に評価して報いることにより、さらなる意欲の喚起向上につながるものとするのです。ぜひとも自分の教育研究活動の“”ことを評価してほしい“といった積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思つています。教職員が変われば学生も変わる、教職員の情熱・愛情は必ず学生に伝わります。教育という崇高な営為にいかにも本気で総力を傾注し得るかに学園の命運がかかっているのです。

■清々しい「あいさつ」からはじめよう!

昨秋、所用で地方の大学と短大を訪問しました。そのキャン

パスですれ違ったほとんどの学生が、初めて見る私に爽やかな表情と声であいさつをしてくれました。率直に感動しました。その清々しさに、私も自然に和まされ笑顔であいさつを返したことでした。あるべき人間関係の原点がここにあります。「あいさつ」は素晴らしい魔法の力を持っているといっても過言ではありません。「あなたたち、どうしてそんなにいいあいさつができるのですか？」と聞いてみました。意外なことを尋ねられるとばかりに「別に、いつもそうですし、当たり前のこと

なので特に理由は…」とはにかみながら答えてくれました。思わず本学園と比べてしまいました。軍配は向こうに上げざるを得ませんでした。コミュニケーション多様化時代に、最も大切な対話は清々しいあいさつから始まると改めて痛感しました。あいさつをしてくれるのを待つのではなく、自分から先にあいさつをし、声をかけていきたいものです。教職員の皆様ともども、今年が昨年より清々しいあいさつに溢れる学園になるよう願って新年のあいさつといたします。

初めての 第三者評価を終えて

関西女子短期大学 学長 志水 彰

短大基準協会リリース
ペーパーより抜粋

関西女子短期大学では二〇〇五年九月に財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、その結果二〇〇六年三月に「適格認定証」の交付を受けています。

一、なぜ初年度に

本学は昭和四十年の設立以来四十一年の歴史を有し、現在は保育科、保健科、歯科衛生学科の三学科で構成されている女子の短期大学である。発足当時から専門的職業資格により社会で自立し活躍することのできる女性、建学の精神である「感恩」にもとづく「社会貢献」の精神を現場で発揮できる女性の育成を教育伝統とし、充実した臨地実習教育と高い専門就職率とにおいてその成果を挙げ、社会的

認知を得てきた。一般の学校教育法の改正により、認証評価機関による第三者評価が義務づけられ、その趣旨・目的が高等教育の「質の保証」と「向上・充実」、また評価結果を公表することによる「社会の理解と支持を得ること」にあると明記されたとき、教育と社会のつながりをつねに意識してきた本学の教職員は、むしろ本学の教育とその成果が客観的に評価される機会がめぐってきたと思つた。初年度に評価を受け

ることを教授会で決めたとき教職員の間に何のためらいもなかった。

もう一つ初年度に評価を受けることを容易にしたのは、自己点検・評価報告書の作成は本学にとつては三度目になるからである。最初の手探り的な試行である「平成五年度自己点検評価取りまとめ報告」を経て、二度目の本格的な「自己点検・評価報告書」現状と課題「二〇〇一」を作成・公表した。それに続く三度目の点検・評価の時期が学内の規定により二〇〇四年に来ており、すでに全学的に「学生による授業評価」のアンケート調査に入っていたので、教職員の心の用意が十分にできていたといえる。

二、第三者評価を受けて気付いたこと

本学の調査日が評価チームの責任者との調整の結果九月七日〜九日という早い時期であったことは結果的に好都合であった。十月に入れば講義に入試関係事務が加わって忙しく、あのように落ち着いた環境で調査を受けることができなかつただろうと思われる。また、評価委員の意向で、章ごとに分かれて同時進行した分科会方式に加えて、始めと終わりに各九十分ずつの全体会が設置されて調査が行われたことについては、短大の全体像を把握していただけたという印象を本学に与え、好評であった。「報告書作成マニュアル」は作

成ガイドブックとしてよく整備されており、大いに助けられた。だ、「報告書」の本文中にカリキュラム表等が入ることになるが、それが科、コースごとに入り、しかも何ページにもなるので、「評価基礎データ一覧表」として各種の表を別冊形式にまとめるのが便利であるように思う。読む側も別冊を横において本文をしっかりと読むことができると、作成側も表に修正が必要となったとき、本文に影響なく容易に修正を行うことができるからである。

「報告書」の頁制限が一〇〇頁となつているが、記述を求められた項目が多くて制限内には収まらないのではないか。骨ばかりではなくて身のある記述を心がけたために、本学は結果的には大幅な頁数超過となり、評価員の方々には多大のご迷惑をかけてしまったことを残念に思つている。

「教育効果の評価」と「授業についての学生の満足度」について、前者は教員の立場から、後者は学生の立場からと、立場の違いは明白であるとしても、その記述内容に重複するところがある。項目の整理の際に工夫をしていただけたらといった感想を持った。

訪問調査時の質疑応答形式について、本学は全体会と領域ごとの分科会との有機的な連結形式で実施され成功した例だと思ふが、なお気付くこともあった。

評価員の方々のなかには、ご自分の担当領域以外の領域についても、質疑応答の実際を聞きたいと思われた方がおられたのではないか。この希望は全体会のなかでかなり充たされたとは思ふのであるが、また、返答する本学側にも、最も適当な返答者は別の分科会に出ているという不便が生じたときもあった。訪問調査時の質疑応答形式をどのようにするとともに効果的か、いろいろ考えさせられた。

三、評価を受けて良かったこと

相互評価のメリットとして、経験と見識をそなえつつ評価員に評価してもらつたこと、その結果、基準協会からいただいた評価結果が、優れている点、向上・充実のための課題の両方にわたつてすべて納得のいくものであり、第三者評価の公平性と客観性をあらためて認識するとともに、評価を受けたことによりその後の日々の教育・研究活動、管理・運営の上で大きな自信となつている。また、指摘のあった問題点については自らを厳しく見つめ直し、この半年ですでに解決したこと、解決の道をつけたこと、解決に中程度の期間を必要とするものにと区別し、本学の問題のありかを明確に視野に収めることができた。このあと第三者評価の回を重ねることにより、本学の真の評価がさだまっていくことを思い、学内では向上への不断の努力を話し合つている。

新体育館の名称決まる

法人本部施設部 中村 勇
新体育館PJT委員会

平成18年2月に着工しました新体育館の名称を募集しましたところ、多数の応募をいただき、ありがとうございました。このたび下記のとおり決定致しました。なお、新体育館の完成は平成19年2月末の予定です。

1 決定した名称と作者

- ・最優秀賞(正式名称) 「学園総合体育館」(大学事務局職員 新藤雅代さん)
- ・理事長賞(愛称とする)「D○夢(ドーム)」(関西福祉科学大学社会福祉学部一年 相川 慧さん)
- ・ユニーク賞 「EGG(エッグ)」(関西女子短期大学助教授 山崎英幸さん)
- ・入賞(5点) 「玉手山学園総合体育館」「美葉(ビバ)アリーナ」「ウェルフェアアリーナ」「玉手箱」「ぶどう館」

2 応募状況(入賞作品以外で上位候補作品及び複数の応募があった主な作品を紹介します)

- ①アリーナさくら
 - ②如月館
 - ③ジュネスアリーナ
 - ④玉手山葡萄館
 - ⑤TAMATEYAMA GYM
 - ⑥玉手山スポーツアリーナ
 - ⑦玉手箱アリーナ
 - ⑧玉手山アリーナ
- 応募総件数は454件でした。

3 表彰

新体育館名称募集要領に記載していますとおり、各賞の作者の方には学園より、賞品を贈呈します。

[参考]

1 名称決定までの経過は次のとおりです。

(1) 公募期間

平成18年8月24日から10月31日まで各部門の掲示板等に応募要領を掲示し、学生、生徒、教職員から広く名称を募集しました。

(2) 決定方法

新体育館PJT委員会にて優秀作を選出、所属長会にて下記の理由により「学園総合体育館」に決定しました。

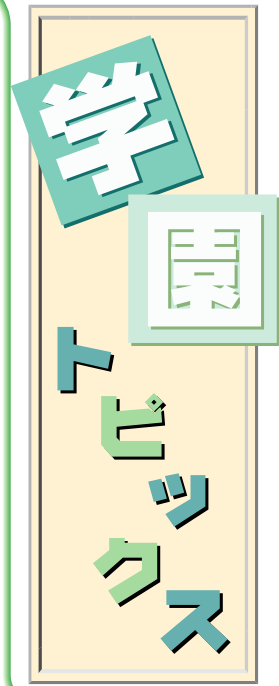
- ア、シンプル、明快で外部にもわかりやすいこと
- イ、複数の応募があったこと

2 最優秀作品を新体育館の正式名称とします。

新体育館の愛称は「D○夢(ドーム)」とします。



完成間近の学園総合体育館(平成18年12月)



関西福祉科学大学

開学十周年記念事業について

開学十周年記念事業実行委員会

関西福祉科学大学は平成十九年四月一日をもって「開学十周年」の節目を迎えます。学園では、「開学十周年」を開学以来積み重ねてきた実績を広く社会にアピールする絶好の機会と考えています。具体的な記念

行事としては、「記念式典」「講演会」、「ホームカミングデー」、「高校生を対象としたコンクール」等を企画しています。記念行事の詳細につきましては決定次第、法人のホームページ等を通じてお知らせいたします。

新マネキン実習室完成

関西女子短期大学歯科衛生学科長

祖父江 鎮雄



「わあ！きれいな。私たち今日からこの新しい美しい実習室で勉強できるの」と、きりつと黒髪を結び上げ、爪を切りそろえ、白クツを履き、真新しい実習着に身をつつみ、目を輝かせてマネキンに向かう一年生の姿を見ると、教員一同心から本当によかったと感じた。これで歯科衛生士の基本術式をマスターする実習教育が、本格的に出来る。と学生以上に慶びにひたった。

昨年四月上旬、大学当局は英断し、補正予算を組んでのマネキン実習室の整備の決定がなされた。施設部、財務部などの事務方、業者の多大な努力によって整備計画が立案され、夏休み期間中には、短大各学科のご理解の中、工事が行われた。九月

二十二日に新マネキン実習室は完成し、二十五日から真新しい設備を使いマネキン実習がスタートした。皆様のご協力にこの場をかりて感謝申し上げます。

日進月歩の著しい歯科医学、医療ならびに器械器具等の発展に対応した新しい歯科衛生士教育が必要となってきた。特に予防処置、診療補助の分野では、殊の外この傾向が強く、複雑化した技術の習得が従来にも増して必要となってきた。

この高度化とともに「人」を対象として、未熟練者である学生が施術するという実習では、事故の発生する危険性も高まってきた。さらに、権利意識の高揚ともあいまって、技術習得には「人」に極めて近い形の機能を付与させたマネキンを用いた技術修得の実習がますます重要となってきた。

今回導入された実習台には、現在考えられる最高の機能を装備したマネキンが設置され、同時に一般歯科診療台に付属する器械機能も付設されており、歯科衛生士としての基本技術を習得する上で最高レベルの装置である。つまり、本格的な基本技術教育が可能となったのである。担当教員が予防処置や診療補助法に関する教材や自らのモデル技術の実際を、学生に実習台上でビジュアルに提供し指導する機能については、現段階では付与されていないが、近い将来設置されるであろう。

マネキン実習の終了した二年生の「私たちも使いたい、使えないの」との声に耳にする。

この声を大切にし、現役学生はもとより、卒業生も視野に入れた利用法を、我々は構築し、有効に活用することが、新マネキン実習室の



新マネキン実習室での実習

慶びとするところであろう。

臨床心理士資格認定協会の 実地調査を受けて

関西福祉科学大学大学院研究科長

武田 建

私たちの大学院心理臨床学専攻は、二年前に臨床心理士認定協会から第一種指定大学院の認可を戴きました。それにより、第一回の修了者（卒業生）から全員「臨床心理士の資格試験」の受験資格を得ることができるようになりました。そして、協会の規定により、昨年の十月二日に、二人の委員を迎えて実地調査が行われました。

私たちが参りましたので、問題はありませんでした。特に、全学に臨床心理士の資格を持つ教員が十四名もいる大学は極めて少ないということでした。実習は学内実習と学外実習に分けられますが、実習担当教員が毎週水曜日の午前中に、講義や事例研究を行うだけでなく、一人ひとりの大学院生にマン・ツー・マンの指導をし、さらに本学の心理・教育相談センターの二人の専任教員カウンセラーが絶えず付き添い、質の高い実習をしていると評価していただきました。また、学外実習も病

加耶大学総長表敬訪問される

関西福祉科学大学事務局

平成十八年九月十一日(月)

に韓国の加耶大学李相熙（イ・サンヒ）総長が本学との国際交流を図る目的で表敬訪問されました。それに先立ち九月七日（木）には同大学大学院生二十一名が大学施設見学に来学されました。本学施設（大学院研究室や専門学校三号館施設、図書館など）の見学に加え、岩瀬副学長の本学の概略説明や、篠置名誉学長の特別講義「日本の福祉行政と臨床福祉学」が行われ、大学院生達が熱心に耳を傾け、メモを取る姿が印象的でした。また、十一日の李総長訪問の際には志水学長、篠置名誉学長、岩瀬副学長、小林学部長、柳井学部長、杉本学部長、鎌田学部長、三戸学部長、中井事務局次長との会談が行わ



加耶大学と本学関係者の皆さん

院臨床とその他の領域の施設へ出向いていること、特に教育と並んで産業界で実習をおこなっている点は、将来大いに期待される領域であるとの言葉をいただきました。また、心理・教育相談センターの充実振りにも好印象をもっていただきました。全体として、本学の心理臨床

れ、両国における現在の大学を取り巻く環境や福祉に関する実情、これからの大学教育のあり方などについて熱心な意見交換が行われました。教育の充実振りを高く評価したコメントを頂戴し、大いに喜ぶとともに、そうした設備と資源を提供して下さる大学当局、献身的な教育と指導を行ってくださる教職員、熱心に勉強と実習をしている大学院生に心から感謝の意を表します。

目をまんまるくして

聞いた保健指導

幼稚園 大西 英子

去年から猛威をふるっているノロウイルス、また今年も牙を剥き始めたインフルエンザにも、我が園の子ども達は平気です。このノロウイルスも、インフルエンザも、予防に一番大切なのは手洗い。子ども達は、毎日、幼稚園でも家庭でも、しっかりと手洗いができるように努めています。

それというのも、去年の十二月、関西女子短期大学保健科養護・保健コースのお姉さん達に、保健指導をして頂いたからです。実物大の大きな手のぬいぐるみが、器用に手洗いの実演をしてくれました。もちろんお姉さん達のやさしいご指導のもと子ども達も手洗いの大切さを知り、積極的に手洗いができるようになってきました。その他に、酒とタバコの害についてもご指導を頂きました。子どもの視線で、スライドやペー



関西女子短期大学の皆さんによる保健指導

プサート、人形などを使ったわかりやすいものでした。「お父さん、タバコ吸ってたら、肺が真っ黒になるねんで！もう吸ったらアカン！」「お母さん、お酒って、女の人の方が弱いねんで。肝臓が悪くなるって、もうやめといて！」と子ども達から警告を発してくれることが何よりの効果となることでしょう。

第二回 美葉祭開催

大学事務局学生支援センター

関西福祉科学大学と関西女子短期大学による大学祭「美葉祭」を、さる十一月十一日〜十二日

の二日間で開催しました。本年のテーマは「みんなでいっしょにわっしょい×②」。主催する

大学祭実行委員と出店・企画参加する学生団体、そして訪れる人々、参加者全てで、一年に一度の「祭り」を盛り上げていこうという思いを込めて掲げられたものです。

「祭り」の舞台裏では、大学祭実行委員会による半年の長きにわたる膨大な準備活動がありました。

新入生歓迎イベント実施に始まり、コンセプトの設定、外部協賛の募集、広報活動、催し・出店団体の取りまとめ、会場内の装飾物の作成など準備は多種多様にわたりました。委員たちは話し合い、時には納得するまで意見をぶつけ合いながら、「祭り」の成功へ向けてベクトルを一つの力強いものに重ね合わせてゆきました。

玉手山学園の ホームページを開設しました

新年あけましておめでとうございます。

学校法人玉手山学園のホームページを法人本部が中心となり、大学事務局及び情報センターに協力していただき、昨年12月15日にWEB上に公開致しました。ホームページ作成にあたり各部門の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

当日一日目は朝から雨でメイン会場での企画を運動場から記念講堂に移動するなど、多くの変更を迫られ、厳しい状況がありました。その雨は夜半に上がり、二日目に予定通りの企画を行うため、夜を徹しての準備が行われました。全員のひたむきな姿勢は、雨天という悪条件にもかかわらず、来場者が昨年の三三〇〇人から三五〇〇人に増加するという成果を生みました。最後になりましたが、大学祭は学園全体の各学校教職員皆様のご協力があったからこそ無事開催できたものと存じております。特に高等学校教職員の皆様には多くのご高配を賜りました。紙面を拝借し、心より厚くお礼申し上げます。

法人本部 山口 良一

法人のホームページを作成することになりましたきっかけは、法人が設置する各学校のホームページが充実してきた中で、それを設置する法人として、玉手山学園のホームページを作り、その中で財務情報も公開しようという理事長からの発案でした。従来、本学では私立学校法による財務情報の公開というこ

財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事の監査報告書（財産目録等）を法人本部に備え置き、利害関係人から請求があった場合、拒否する正当な理由がある場合を除いて閲覧に供することにしていました。しかし今回ホームページ上で財務情報を公開するとなりますと利害関係人に対してだけでなく、学校法人として広く社会に向けて情報を発信し、その責任を果たさなければならぬということになります。それと発信する情報の内容が、さきほど述べました私立学校法で閲覧を義務付けられた書類の公開、ただけではなく全ての学部学科の在籍数の公開まで行おうということとで簡単に決められるものではありませんでした。

早速本部内で検討を始め、案をまとめ、本部長から理事長、そして運営理事会と進み、法人としての方針が決まりました。これは社会に向けて「学校法人玉手山学園」の資産及び経営状況を公開し、本年度だけではなく毎年継続し、社会に対し学校法人としての責務を果たしているというということです。

少子化が進む中で大学及び短期大学では、年々定員割れになっている学校が増える状況下で財務情報を公開することは法人によればマイナス作用が働く場合もあります。本学の場合は過去の経営努力により経営状況も安定しています。だから情報

公開をしたのかというと、そうではありません。継続して公開することは、私学を運営する法人として学園の現在及び未来に向け、学園を一層良くしていくこととするという確固たる自信と信念の現われなのです。
玉手山学園ホームページには理事長の挨拶、建学の精神・沿革、

学園概要 事業報告・財務状況・学園広報を掲載しています。職員の皆様も一度ご覧になつてください。
それでは、新年を迎え気持ち新たに今年も学園の発展のために教職員一丸となり、共に頑張つていきましょう。

アルティメット

世界選手権に出場しました

大学事務局 森 下 正 顕

平成十八年十一月十二日〜十八日にオーストラリアのペースで開催されましたアルティメットの世界選手権に出場させていただきました。私自身は三度目の世界選手権出場で今回はマスター部門(三十二歳以上)で出場しました。アルティメットは一チーム七人でプレーする団体競技ですが、世界選手権は六日間で十一試合(試合は九十分)を行う過酷なスケジュールのため通常は一チーム二十名前後の体制で試合に臨みます。しかし、今回は直前に辞退者が相次ぎ十一名での挑戦となりました。周りからは無謀な挑戦と言われましたがチームエントリは辞退せず試合に臨みました。けが人を出しながらも少人数で何とか最後まで戦い続け、最終戦績は二勝九敗、順位は十一チーム中十位でした。いい結果は残せま

ングディスク(一般的にはフリスビーの名称で親しまれているプラスチックの円盤)を使用し一チーム七人でプレーする団体競技です。縦百十m横三十七mのコートの両端にゴールエリアがあり、ディスクを空中にパスさせて相手陣地のゴールエリアでキャッチすると得点となる競技です。大きなコートの中を走り回り、数あるスポーツの中でも心肺機能にかかる負担が最も大きいのでアルティメット(究極、極限という意味)と名づけられました。アルティメットはスピードと持久力、個人の技術、攻守のチーム戦術、ディスク独特の飛行性が特徴の競技です。また、セルフジャッジ制を導入していて審判がないのもこの競技の特徴です。

せんでしたが試合を重ねることにチームは結束し随所に好プレーを出すことができました。過去に経験したことのない過酷な条件でほぼ全員が最後までプレーできたことを私は誇りに思っています。日本のアルティメットのレベルは世界の中でも高く、人数が揃えばメダルが狙えるので四年後の世界選手権では再挑戦したいと思います。最後にになりましたが、私的な理由での長期休暇取得を快く承諾して世界選手権に送り出して下さった事務局職員の皆様に感謝しております。ありがとうございます。

○アルティメットとは
アルティメットはフライ



競技中の森下さん (写真中央)